

MMJ が品質理由に集乳停止 一部農家で生乳廃棄

2020年3月18日

群馬県の生乳卸MMJ（茂木修一社長）が、十勝管内を含む道内の契約農家からの生乳集荷を、品質異常を理由に昨年下半年から停止していることが、18日分かった。関係者によると、管内の農家6戸のうち1戸が現在も出荷できずに生乳を廃棄している。出荷先をホクレンに戻す酪農家も出ている。

MMJは2002年に設立。ホクレンなど指定生乳生産者団体以外の卸業者（アウトサイダー）として、道内外の酪農家から生乳を仕入れ、本州の乳業会社に出荷してきた。規制緩和によって18年、国が支払う補給金の対象事業者になった。昨年12月時点で全国100戸、道内36戸が出荷。管内は6戸をまとめて集乳している。

関係者によると、管内では昨年12月、生乳の簡易検査の結果、4戸の生乳について「品質基準に合わない」として集荷が停止された。1戸は改善されたとして翌1月に再開し、別の1戸は経営が変わってホクレンに出荷先を変更。残り2戸は現在も生乳が出荷できない状態が続

き、1戸は4月からホクレンへ戻り、残り1戸は経営譲渡する方針だ。

出荷停止となった酪農家はオホーツク管内にも複数あるとみられる。十勝管内では現在3戸から1日約40トンを集乳している。茂木社長は「まじめにやっている農家の牛乳が売れなくなり、経済的負担が強いられるのはおかしい。状況が変われば集荷できる」と話す。

ただ集荷を停止された酪農家は、品質基準などの対応に疑問を示し、「自分たちで行った検査では問題はなかった。飲用乳の需要が落ちる時期に合わせた生産調整ではないか」と憤りの声を上げている。

カマンベール増産へ新棟 70億円、6月着工 雪印大樹工場

2020年5月14日

【大樹】雪印メグミルク（本社東京）は13日、主力チーズ工場の大樹工場（大樹町緑町35、和泉洋工場長）にカマンベールチーズの増産を目的とした新棟を建設すると発表した。約70億円を投資して6月に着工、2022年度中の稼働を予定している。

同日発表の20～22年度中期経営計画で示された「チーズ事業の戦略的拡大」の一環。大樹工場は13年に「さけるチーズ」の増産に向けた新棟を68億円で建設しているが、今回の新棟建設で、チーズの生産体制をさらに充実させる。

カマンベールチーズの新棟建設は、老朽化した包装工程設備を更新して行う。年間生産量などは非公表。

大樹工場ではこのほか、増産に向けて、地下水の導入や排水処理、電力設備などの生産基盤を強化。「さけるチーズ」の生産は、人工知能（AI）の自動検品によって、作業の効率化と増産への対応を図る。

同社は「国産家庭用チーズの需要は家飲みなどで堅調に増加している。今後も市場の拡大が見込まれる中、大樹工場を通じて良質な生乳による乳製品を提供したい」としている。

大樹工場は大樹、広尾の両町から生乳を受け入れ、従業員数は約300人。1957年に建設。地域と縁が深く、大

樹町内では、カマンベールチーズにバジルやブラックペッパーをまぶした限定商品「大樹物語 香りをはさんだカマンベールチーズ」を販売している。



カマンベールチーズの新棟を建設する
雪印メグミルク大樹工場